

主 題 救世主は生まれた  
聖書箇所 ルカの福音書 2章22-35節

このクリスマス、すばらしい喜びの時、人類の救いのためにこの世に来てくださったイエス・キリストの誕生を心から賛美するときです。今日はルカのこの箇所から、シメオンの証によってイエスの誕生を見てゆきましょう。シメオンについてはルカの福音書だけに記されています。彼は敬虔な人で、誕生八日目のイエスをその手に抱いたのです。

☆シメオンはどのような人物であったのでしょうか？

1. まことの神を心から愛する人でした  
神を心から愛して正しく生きていました。また、神を恐れる人でした。今現代の人々が共通してもっているもの、それは何も恐れるものがないということです。私たちには神を恐れ、神のみことばに従っていくことが最善、最良のことです。神を愛するとは神の命令を守ることです。シメオンはその生き方によってこのことを証していたのです。

2. 神を信頼する人でした  
「イスラエルの慰められることを待ち望んでいた」とある通り、神の約束は必ずその通りになると信じ続けていたのです。

3. 神の導きに対して従順でありました  
シメオンには救い主にお会いするという神からの約束が与えられていました(26節)。25節の後半に「聖霊が彼の上にとどまっておられた」とあり、27節には「彼が聖霊に感じて宮にはいると、…」とあります。シメオンは常に聖霊の導きに従っていました。神のみこころは神、聖霊が私自身を支配しているとき示されるのです。そして、それはその人のみならず、周りの人にも示されるのです。祝福が与えられるのです。神にすべてを捧げているなら神は聖霊によって私たちを導いてくださるのです。

☆シメオンの証言

1. イエスは救い主であること  
(a) 神の真実さを賛美しました  
28節にはシメオンがその腕に幼子を抱き、神をほめたたえたことが記されています。彼はこの幼子がメシアであることがわかったのです。そして、29節、「主よ。…」と呼びかけています。神が主権者であること、神の約束が真実であることが証されています。

30節、この幼子によって成される神の約束の成就を証します。そして、シメオンは「みことばどおり、安らかに去らせてくださいます。」と言います。罪から解放されて平安のうちに主のもとに召されることです。これはクリスチャンの死生観です。神の祝福の中に招き入れられるのです。

(b) 神の恵みを称えました  
31-32節は、神はすべての人の前に救いを備えてくださいました。異邦人のためにも…。これは神の恵みです。そして、ヨセフとマリヤにこの幼子が救い主であると告げるのです。倒れるとはこの救い主を拒むことです。立ち上がるとは救い主を受け入れることです。  
人が救い主を信じるか信じないかは、その人の心が明らかにされることです。神は心をご覧になります。本当に救われるのはその人の心が主を受け入れるからであり、倒れるのは心が主を拒むからです。そして、その結果は明らかです。神はこのことを聖書に明らかに記しておられます。

2. この子は苦しみの救い主であること  
人々から反対を受けると、シメオンは母マリヤに予言します。多くの痛みを受けることになる。そして、マリヤもまた苦痛を経験することが35節に「剣があなたの心さえも刺し貫くでしょう。」と言われます。それはイエスが十字架に架けられたときにその通りになりました。マリヤは母として誰よりも痛み苦しみました。しかし、この十字架こそ救いのために必要なのです。

⇒このシメオンが予言したとおりに、この後の世は動いて行きました。シメオンの予言が真実であったことが明らかになりました。  
救い主がこの世に来てくださった。これがクリスマスのメッセージです。まだ、お信じでない方はどう

ぞ、救いを受けてください。あなたがクリスチャンなら、このシメオンにならって生きてゆきましょう。  
神に用いられるように…。